

# 令和7年度 放課後等デイサービス 事業所職員自己評価表

エルロン都府楼南

対象一7 回答一6

回答率86%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	青字一意見・提案 黒字一補足
環境体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	6 (100)			敷地、建物とも十分な広さを確保しています
	②	職員の配置数は適切であるか	6 (100)			人数がもう少し増えたら見守りがしやすくなるのでは・・・基準より多く配置しているつもりですが、それでも介助の必要なお子様への対応は十分でない事も多く発生します。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	6 (100)			全館バリアフリーです
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に広く職員が参画しているか	5 (83)	1 (17)		毎月業務改善会議を持ち、PDCAサイクルに沿っています
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	5 (83)	1 (17)		評価アンケートへのご協力に感謝いたします。ご意見を生かせるよう鋭意努力いたします
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	5 (83)	1 (17)		ホームページをご覧ください
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	3 (50)	3 (50)		義務化されている事業が最優先となります
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	4 (67)	2 (33)		スケジュールを調整しながら、研修を受けられるようにしています
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	6 (100)			カンファレンスを確実に行っていきます
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために標準化されたアセスメントツールを使用しているか	6 (100)			標準化されたアセスメントツールは難易度が高くなる アセスメントツールを利用することのお子様への負担を考慮しながら使用しています
	⑪	活動内容の立案をチームで行っているか	3 (50)	3 (50)		児童発達支援管理責任者が提案し、スタッフ間で検討しています
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	4 (67)	2 (33)		対応するお子様に必要なポイントをおさえながら日々の工夫を重ねています
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて課題をきめ細やかに設定して支援しているか	3 (50)	3 (50)		無理なく楽しく効果的なプログラムを多種多様な試みを加えながら実施しています。

	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	4 (67)	2 (33)		集団活動はお子様の特性や現状に合わせて組み分けをし、個別活動も適切な課題を選択しています
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	5 (83)	1 (17)		支援開始前に朝礼をし、途中から加わるパート職員には、当日のリーダーが伝えています
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	6 (100)			終礼の時間をとり、各スタッフからの報告を共有しています
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	6 (100)			保護者様にお渡しする連絡帳だけでなく、特記すべきことは日誌に記入しています
	⑱	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	6 (100)			貴重な時間をいただきますが、お子様の変化やご希望の聞き取りを大切にしています
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	6 (100)			児童発達支援ガイドラインに沿って利用のお子様ならびに保護者様への支援に努めています
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	6 (100)			基本的には児童発達支援管理責任者が出席します
	㉑	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	5 (83)	1 (17)		お問合わせに対応しながら情報共有し、支援に活かしています
	㉒	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	4 (67)	2 (33)		当事業所と保育所または幼稚園を併用なさったお子様の場合、就学後も情報共有しています
	㉓	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	2 (33)	4 (67)		保護者様のご希望に沿って、情報提供をしています
	㉔	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	1 (17)	5 (83)		研修を受ける機会はありませんが、助言を受けることはあります
	㉕	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		3 (50)	3 (50)	夏からの感染症、特にインフルエンザの大流行にあつて、感染拡大を防止する観点からあえて交流をしていません
	㉖	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	1 (17)	4 (67)	1 (17)	当事業の地域の自立支援協議会に子ども部会はなく機会がありません
	㉗	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	6 (100)			お迎えの際貴重な時間をいただきますが、お子様のご様子や展望をお伝えできています

	⑳	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	5 (83)	1 (17)		定期的なペアレントトレーニングの形はとっていませんが、お困りのことや質問には丁寧に対応しています
	㉑	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	6 (100)			契約時に説明し開示しています
保護者への説明責任等	㉒	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	6 (100)			毎日保護者様と対面しているので、お困りごとにはすぐに対応できています
	㉓	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		3 (50)	3 (50)	父母の会を求められる声がなく、むしろご多忙で、個々に対応することを望まれるので実現していません
	㉔	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	6 (100)			保護者様からのご連絡すべてに即応しています
	㉕	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	6 (100)			毎月<エルロン通信>を発行し、郵便にてお届けしています
	㉖	個人情報に十分注意しているか	6 (100)			書庫、事務室を施錠でき、建物全体はセコムとの契約をしています
	㉗	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	5 (83)	1 (17)		お子様とのやり取りはそれぞれに工夫しています。また保護者様とは毎日のお迎えで対面し対話しています
	㉘	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	2 (33)	2 (33)	2 (33)	ご招待するイベントはありませんが、見学を受け入れています
	㉙	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	6 (100)			それぞれのマニュアルを作成し、職員には告知していつでも見ることができるようにしています
非常時等の対応	㉚	新型コロナウイルス等の感染予防に対し所内の対策は適切であるか	5 (83)	1 (17)		感染症に関する規定を作成し、通所制限等があります。インフルエンザの蔓延時にも所内の感染拡大は起こりませんでした
	㉛	就業する職員の感染症等発症に対して配慮は適切である	6 (100)			職員には感染防止の観点から就業停止を含め、協力を願っています
	㉜	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	6 (100)			年に2回の災害学習と避難訓練を実施しています

	④1	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	6 (100)			毎年11月を定期の研修月として、職員のシフトに合わせ、数回に分けて実施しています
非常時等の対応	④2	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	6 (100)			契約の際に身体拘束の基本概念をお伝えし、了承をいただいています
	④3	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	6 (100)			これまでアレルギーを持つお子様の事例がありません
	④4	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	5 (83)	1 (17)		実際に事業所内で起こったヒヤリハット等の記録を事例集として編纂し開示しています
就業環境	④5	支援や業務上の迷い・疑問などが生じたとき、相談し解決できる態勢が整っているか	6 (100)			児童発達支援管理責任者だけでなく、リーダーや役員にも相談できるような態勢をとっています
	④6	過労働、過業務で支援に影響がおこることはないか	6 (100)			過重労働を課して支援に支障が出ないように注意、配慮しています

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス エルロン都府楼南		
○保護者評価実施期間	令和 7年 12月 15 日		～ 令和 8年 1 月 15 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	令和 7 年 1 2 月 15日		～ 令和 8年 1 月 15 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年11 月 15 日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	建物が広く、利用者が走り回るスペースを確保できている。部屋数も多いので、目的に合った使用ができる。庭も広く遊具もあるので、利用時間が短い日も外遊びができる。	特に夏休みなどの学校休業日は、児童発達支援と利用時間が重なるので、それぞれにスペースを確保し適度な間隔をとっている。	玄関をオートキーにし、窓の開閉管理を徹底して安全を図っている
2	専門職による支援を行っている STによる言語訓練 柔道整復師による側弯、猫背、巻き肩、関節強化等の 施術	STも整復施術も個室を確保して実施している。施術は体に触れるので、他のスタッフが立ち合いをする。	STは言語能力・コミュニケーション力の向上を期して、適切な課題を提示し楽しく訓練できるようにしている。施術は利用者を正しく診断し、最も効果的で利用者が気持ち良いと感じる、無理のないステップアップを可能にしている

3	運動学習をメインに据え、体全体、手先指先を楽しみながら動かすことによって脳への刺激をしっかりと与え、発達の促進を図っている	利用者にあった教材を用意し、無理なくステップアップできるように企画している。備えている運動器具を活用して活動や遊びを企画し、体力の増強も図っている	夏休みはプールを設置して、毎日水遊び、顔付け訓練を実施し、近年後退している学校現場でのプール活動を幾分でも代行できたらと考える。
---	---	---	--

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	古民家一戸建ての事業所であり、死角が多い。ドアや障子等を開放すると回遊できて利用者はとても喜ぶが、ぶつかり事案も起こりやすい。	死角ができないように監視カメラを10台以上配置し、危険を察知できるようにしている。	かくれんぼや追いかっこが始まると、見守りのスタッフを増やし、角ごとに立って利用者に注意を促す。
2	弊所はご自宅までのお送りをせず、保護者様のお迎えを待つシステムにしている。	このことは保護者様の利便性に反しているようで、見学等で施設を評価していただいても、お送りせずお迎えをお願いすることが意図に合わないようで、利用を逡巡されることが多い。	送迎に関してはメリット、デメリットが交錯しており、現状がベストであるとは思っていない。が、保護者と利用者の様子について語り合う機会が多く持てて、職員の労務負担も考慮すると難しい。お送りがどうしても必要という事例については、可能になるように特例規定を設けている。
3	ペアレントトレーニングを定期的には実施できていない	こまめにお困りごとや悩みの解決に応じているが、系統的なペアレントトレーニングに結びつくには至っていない	ご希望がない場合も、事業所での様子を細かくご報告することで問題意識を共有できるように試み、課題解決に結び付ける